

令和4年度

「運営に関する計画」

大阪市立長橋小学校

2023（令和5）年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は、これまで保護者や地域の理解と協力を得ながら、ともに歩む歴史の中で、人権尊重の教育を中心に据え教育活動を進めてきている。一人ひとりの子どもに寄り添い、子どもたちの実態に向き合い取り組みを構築してきた。また本校は、外国につながるのある子どもも多く在籍する。その子どもたちが自分に自信をもち、自身のつながりに誇りをもつことをめざし、多文化共生教育にも注力してきた。「自ら学び考える子」「強くたくましい子」「仲間を大切にする子」をめざす子ども像とし、人権を尊重した教育を基盤として、学力向上と集団育成を推進し、一人ひとりの子どもを大切にした教育を推進してきている。

その積み重ねの中で、本校の子どもたちは、自ら進んで挨拶をしたり、主体的に清掃活動を行ったりと、自主性・主体性を示す子どもたちが増えてきている。学習に対する落ち着きも見られ、前向きに取り組む姿勢も窺える。校内調査の学習アンケートでは「学習内容が分かった」と肯定的に回答する子どもたちが近年増えてきており、大阪市学力経年調査児童質問紙においても、各教科の「学習が好き」と肯定的に回答する児童は、大阪市平均を上回っている。学習への意欲の高まりが十分に感じられるものとなっており、これまでの取り組みの大きな成果と言える。一方で、学習内容の定着という側面においては課題を残す。学力経年調査の結果も厳しいものがあり、本校の子どもたちの学力の定着については、これまで続いてきている課題と言える。

本校には、家庭環境に課題を抱え、基本的な生活習慣が身についておらず、生活面からの支援を要する家庭が散見される。遅刻・欠席数は相当数にのぼり、教員が協力しながら子どもたちの生活面にに関わりつつ登校支援や学習支援を行っている。昨年度はコロナ不安の影響で欠席する子どもも多く、双方向通信を活用したオンライン授業の実施やプリント学習の取組などの支援、個別支援を進めてきた。しかしながら、遅刻や欠席の多い子どもや生活面で配慮を要する子どもには、基礎的な内容の定着が不十分となり、学習や学校生活への意欲が低下してしまう姿も見られている。基本的な生活習慣の確立に向け、「早寝、早起き、朝ご飯」などの啓発週間で子ども、保護者へ働きかけたり、日常より保護者の協力を求めたりしてきているが、今後も継続して取り組むべき課題となっている。

また、本校の子どもたちは、学習や運動への意欲、相手意識などは高いものの、自身への思い、自己肯定感が低い傾向にある。校内調査の生活アンケートでは「自分にはよいところがある」と肯定的に回答する子どもは、他の項目ほど高くはない。大阪市学力経年調査児童質問紙においても、「自分にはよいところがある」の項目で、近年、大阪市平均を10ポイント以上下回る結果が多い。生活環境の厳しさとともに、幼少期の体験なども要因と考えるが、自分が認められる、必要とされる経験の少なさ、褒められる経験の少なさが影響しているものと考えられる。

【児童質問紙「〇〇の勉強は好きですか」への肯定的な回答の数値】

年度	国語		社会		算数		理科		外国語		平均値	
	本校	大阪市	本校	大阪市	本校	大阪市	本校	大阪市	本校	大阪市	本校	大阪市
2019	67.6	68.2	58.9	62.0	75.8	73.4	74.7	77.0	64.5	73.8	68.3	70.9
2020	75.4	65.7	67.8	61.2	81.2	69.9	80.6	78.9	70.5	71.9	76.0	69.5
2021	74.2	66.6	69.8	62.8	77.1	69.2	79.4	80.0	79.3	74.7	76.0	70.7

【各学年の標準化得点推移】

年度	小3	小4	小5	小6
2019	87.0	91.2	86.7	99.6
2020	89.8	87.9	90.9	90.7
2021	90.5	89.7	90.0	93.5

【児童質問紙「自分にはよいところがあると思いますか」への肯定的な回答の数値】

年度	本校	大阪市
2018	58.3	76.1
2019	57.7	72.4
2020	71.2	70.1
2021	60.1	73.9

本校の子どもたちは明るく元気な子が多く、異学年交流における相手を思いやる優しさや態度など、誇らしい姿も多く見受けられる。その子どもたちの姿こそが本校の取組の成果である。その成果を維持しつつ、子どもたちが自分たちの夢を実現できる力を、自分の思いや考えを実現できる力を養っていく必要がある。現状の課題である自己肯定感の醸成と学力の定着・向上をめざし、自己実現できる力を育成していくものとする。

自己肯定感の醸成を進めるうえでは、子どもたちにできることを増やすとともに、できたことへの称賛、認め励ます姿勢を大切にしていきたい。

学力の定着・向上を進めるうえでは、日々の学習活動の中で、主体的・対話的で深い学びの実現をめざし互いに学び合う学級集団を育むことが大切になる。また、本校が取り組んできた読書活動の充実、継続して行っていく。語彙力を高め、基礎学力の向上につなげていきたい。大阪市が力点を置く ICT 教育においても、今後さらなる充実が求められている。学習意欲の喚起を促すことも含めて、本校でも取り組んでいく必要がある。

これまで進めてきた中で成果を上げてきた「一人ひとりを大切にしたい教育」を今後も継続し、本校教育活動の深化充実に努めるとともに、次代を担う子どもたちの生きる力を育むため、保護者、地域とのつながりを大切にしながら、教職員一丸となって取り組んでいく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和7年度の小学校学力経年調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について、最も肯定的な「思う」と回答する児童生徒の割合を、90%以上にする。
- ・令和7年度の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- ・令和7年度の校内調査における「自分にはよいところがありますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・令和7年度末の校内調査の「いろいろな国や地域の文化や伝統などにふれる機会が多くあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和7年度の校内調査における「授業の内容がわかりますか」の項目について、肯定的に回答する割合を85%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における国語および算数の標準化得点を、いずれの学年も95ポイント以上にする。
- ・令和7年度の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目について、肯定的に回答する割合を90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和7年度の校内調査における「日々の活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を100%にする。
- ・令和7年度のゆとりの日について、週1回以上設定する。
- ・令和7年度の校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、85%以上にする。
- ・令和7年度の校内調査「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える教職員の割合を90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 85%以上にする。
- ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- ・ 校内調査における「自分にはよいところがありますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にするるとともに、「自分にはよいところがない」と回答する児童の割合を 15%以下にする。
- ・ 校内調査における「将来の夢や目標がありますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。
- ・ 年度末の校内調査の「いろいろな国や地域の文化や伝統などにふれる機会が多くあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・ 小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目について、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 35%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。
- ・ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 40%以上にする。

学校園の年度目標

- ・ 小学校学力経年調査における各教科の準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- ・ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において「反復横跳び」の平均記録を、前年度より向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- ・ 校内調査における「ICT（プログラミング等）の使用により授業が分かる」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。
- ・ ゆとりの日について、月 1 回以上設定し実行する。

学校園の年度目標

- ・学校閉庁日については、夏季休業期間中は4日以上、夏季休業期間以外の休業期間については1日以上設定する。
- ・校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、70%以上にする。
- ・校内調査における「学校は家庭・地域との連携を密にしているか」の項目について、肯定的に答える教職員の割合を80%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

今年度は、本校がこれまで大切にしてきた取組による成果を維持しながら、子どもたちが自己実現できる力を養うために様々な取組を進めてきた。

まず何より、日々の子どもの様子を丁寧に把握し、学習面・生活面で指導・支援を進めてきている。子どもにかかわる情報について、些細なことでも変化や違和感に気づいたらをすぐに共有し、子どもの指導・支援に生かしてきた。問題事象につながりそうなことについては、初期対応を素早く行い、教職員が連携して子どもに関われるようにしてきた。場合によっては、校内全体で共通理解を図り、学校全体で対応ができるように進めてきた。それらの日々の丁寧な取組により、子どもたちにとって学校が安心して過ごせる居場所になっている。

安全・安心な教育の推進における目標数値の達成からも、子どもたちが安心感をもって学校生活を送っていることが窺える。特に今年度は、子どもたちの自己肯定感を高めるための活動を取り入れてきた。SWPBS の取組を中心に、子どもたちにできることを増やすとともに、できたことへの称賛、認め励ます姿勢を大切にしてきた。経年調査児童質問紙で「自分にはよいところがあると思う」と肯定的に回答する児童の割合が増加傾向にあることから、取組の効果が表れてきていると感じる。

【児童質問紙「自分にはよいところがあると思いますか」への肯定的な回答の数値】

年度	本校	大阪市	対市比
2018	58.3	76.1	76.6
2019	57.7	72.4	79.7
2020	71.2	70.1	105.4
2021	60.1	73.9	81.3
2022	68.4	76.4	89.6

また、人権教育を中心に据えた教育活動をしていることから、いじめにかかわる質問項目は、校内アンケートの高い数値のみならず、経年調査児童質問紙において大阪市平均を超えていることは、成果としてあげられる。

【児童質問紙「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか」への肯定的な回答の数値】

年度	本校	大阪市	対市比
2022	97.5	95.1	102.5

さらには、今年度は民族学級開設50周年、フィリピン学級開設20周年、多文化共生学級開設10周年という節目の年であった。あらためて本校が大切にしてきた在日朝鮮人教育をはじめとする多文化共生教育を振り返り、実践の大切さを確かめつつ、取組の深化充実に努めてきた。今年度の取組を通して、外国につながるのある子どもたちだけでなく、全ての子どもたちの自己肯定感を高めることになったことが、校内調査の「いろいろな国や地域の文化や伝統などにふれる機会が多くあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合からも分かる。また、保護者同士のつながりが深まり、豊かな関係作りに貢献できたことは嬉しいかぎりである。

学力の定着・向上を進めるうえでは、日々の学習活動の中で、子どもたちが主体的・対話的に活動し、それらの活動を通して学びが深まるよう、互いに学び合う学級集団を育むように努めてきた。

研究については、SWPBS を学習の中に効果的に取り入れるようにし、子どもたちへの称賛、励ましを大切にしてきた。学習においても頑張れば褒められる、当たり前のことであるがその積み重ねの中で、子どもたちの意欲は喚起され、学習への集中力が高まり、徐々に基礎的・基本的な内容の定着へと歩んでいっている。この研究の営みは、子どもたちが褒められる場を、環境をいかにして創造し得るかという教員の営みである。この営みがさらに高まることにより、普段の学習においても教育的意図を持った働きかけを行い、環境設定と子どもたちへの称賛が可能となる。さらなる子どもたちの学習意欲や学力の向上に期待がもてるものである。

さらには、朝の学習の時間、放課後学習、子どもたちの学力向上に向け、日々努力を重ねてきた。これらの積み重ねにより、子どもたちのボトムアップが図られ、着実に学力の定着・向上に向け歩んでいると言える。

教育環境の充実面においては、ゆとりの日の設定や閉庁日の設定など、働き方改革にかかわる視点、ICT 教育にかかわる視点、読書活動にかかわる視点などで取り組んできた。これらのことは今後も継続的に行うとともに、来年度は「会議の整理」の考え方をもとにした行事設定、会議の設定を進めることで、教職員のゆとりを生み出すことを進めていきたい。

年度目標にかかる評価結果は、我々の取組を厳しい視点で振り返り、取組のさらなる向上をめざしていることの表れでもある。今年度の成果と課題を踏まえ、さらに取組を充実させる中で、今後も「一人ひとりを大切にした教育」を継続し、本校教育活動の深化充実に向けていく。次代を担う子どもたちの生きる力を育むため、保護者、地域とのつながりを大切にしながら、教職員一丸となって取り組んでいくものとする。